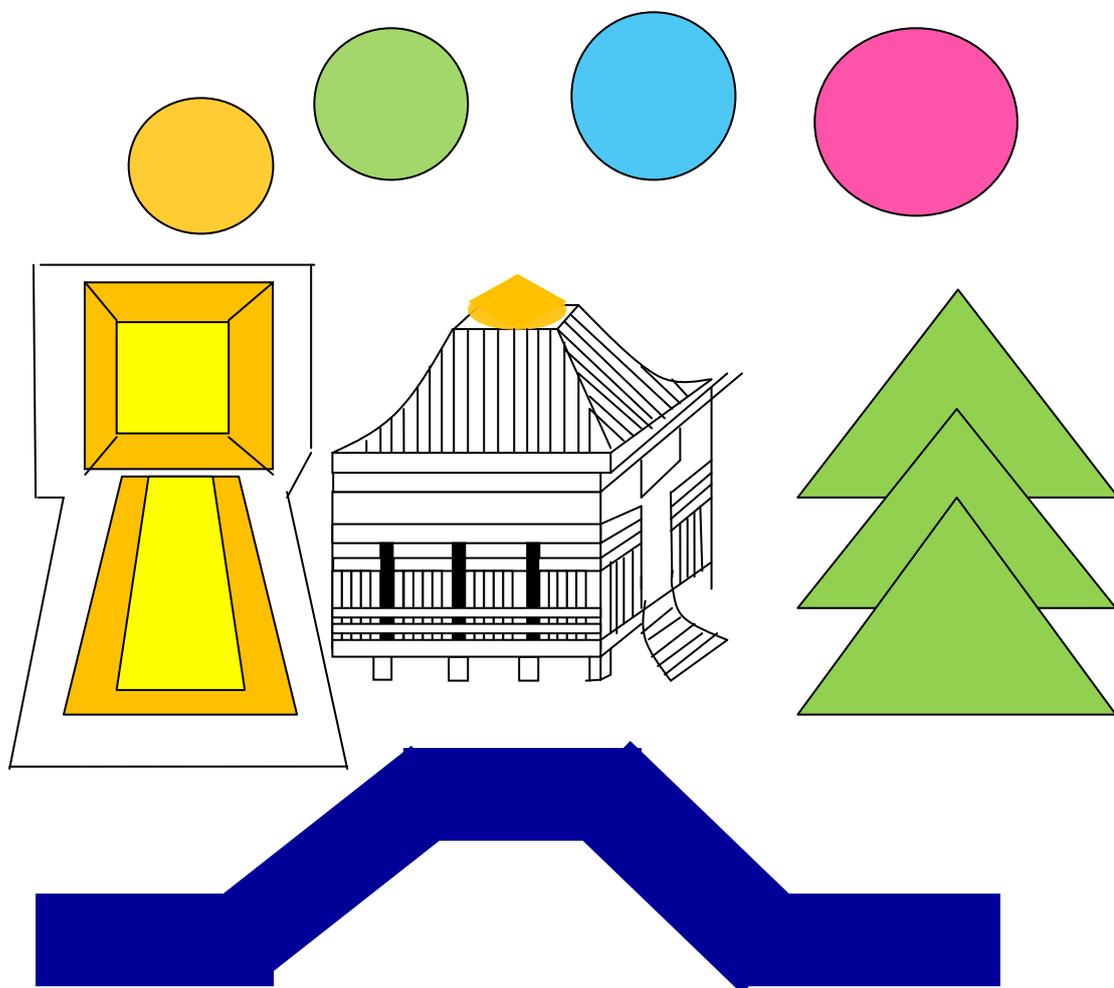


エコミュージアム金目まるごと博物館 実施計画

平成22年度 ~ 平成24年度
(2010年度 ~ 2012年度)



エコミュージアム金目まるごと博物館

金目まるごと博物館とは・・・

金

金目住民による、金目地域全体の地域資源（歴史や自然と産業等）が対象となる。

目

目や耳など、体全体を活用して、地域資源（サテライト）を掘り起こす。

ま

まちづくりや地域活性化の推進につながるための構想も同時に検討を進める。

る

るいじ（類似）性や共通性がない、金目独自の「屋根のない博物館」を造りたい。

ご

ごうり（合理）的、機能的な研究所、保護センター、学習センターの役割を担う。

と

とレイル（発見の道）の整備やガイドボランティア、5大事業などを実施する。

博

博物館の展示物は、現地でありのままに調査研究、保存、活用を行う。

物

物事の変化とともに移り変わり、増減していく、動的な博物館である。

館

館員（金目の地域住民）が一丸となって、積極的に博物館活動に携わる。

エコミュージアム 金目まるごと博物館のご紹介

「エコミュージアム」とは生態学(Ecology)と博物館(Museum)を組み合わせた造語で、ある特定地域の人びとの生活、その自然、文化および社会環境の発展過程を研究し、それらの遺産を現地において保存、育成し、展示することによって、その地域社会の発展(まちづくり)に寄与するのがエコミュージアムです。したがって、一般的な博物館は建物の中に資料を展示しますが、エコミュージアムはその地域全体が博物館であり、保存すべき現地が展示室となります。

「エコミュージアム金目まるごと博物館」は、金目に残された自然・環境、歴史的・文化的遺産を調査し、保存・育成し、さらに展示、活用しながら、将来に向かって金目の新しい「まちづくり」を地域の人々と平塚市が協働して進めようと、2007年6月に発足しました。

私たち「エコミュージアム 金目まるごと博物館」には3つの使命があります。

一つ目の使命は、自然と文化の保護センターであること

日本各地で宅地造成等によって自然環境や生活環境の変化が著しく、歴史・文化遺産や自然がなくなりつつあります。金目地域も例外ではありません。しかし、金目地区にはまだまだ歴史・文化遺産、自然、景観、公園、田畑、農場施設（これらをサテライトといいます）が数多く点在しています。これらのサテライトを現地にて保存することです。そして、更にこれらのサテライトを有効利用しながら金目の経済発展に結びつけて行くことにあります。

二つ目の使命は、地域住民の学校であること

金目まるごと博物館は、住民同士が互いに金目の歴史・文化、自然、生活を学び合い、楽しく快適な生活の実現のために情報提供を行います。また、そこで学んだ事柄を地域住民や金目を訪れたビジターに還元し、金目の素晴らしさを紹介できる人材の育成の場を提供します。

三つ目の使命は、金目のまちづくりを探求する研究所であること

地域住民の生活と自然・社会環境、農産業について調査研究を行い、今後の金目の望ましいあり方(姿)を探し求めていける人材が必要となります。そのためには各分野(歴史・文化、自然・景観、農産業等)において熟知した金目住民の学芸員を養成する必要があります。

このような使命をもって事業活動を進め、またまちづくりのために、「金目まるごと博物館」は①歴史・文化、②自然・景観、③産業、④情報・イベントの4部会で構成されており、現在84名の会員がいずれかの部会に属し、それぞれの分野で活動しております。

これまでの具体的な活動として、会員が調査した資料をもとに「**かなひ(金目)の歴史ガイドブック**」を平成20年6月に発行しました。さらに金目の素晴らしい自然と景観を多くの住民に知ってもらおうと、会員が地域を隈無く歩き回り、平成21年11月に「**金目の自然・景**

観ガイドブック」が発行されました。更に22年には「金目の産業ガイドマップ」の発行を予定しており、これは金目における農業・商業の発展の基礎資料となることが期待しています。

その他、地域住民が金目の歴史、文化、自然を守り伝え、保存し、そしてみんなでまちづくりをするために「金目桜まつり」、「金目灯ろう流し（共催）」、「金目収穫祭」、住民と小学生による「学習発表会」や福祉教育の先駆者の遺徳を偲ぶ「秋山博墓前祭」を開催しています。また、先に述べた四つの部会の枠を越えた「可奈比(かなひ)塾」、「竹塾」、「自然体験塾」といった寺子屋的勉強会が開かれて「金目のまちづくり」が具現化されつつあります。

「エコミュージアム 金目まるごと博物館」の事業活動に共鳴し、また温かく見守っていただければ幸いです。

平成22年3月

エコミュージアム 金目まるごと博物館
委員長 米村 康信

目 標

歴史や文化を身近に感じ、自然や環境と調和
した景観があり、人々が支えあう、秩序ある
コミュニティの形成

達成方針

歴史的価値のある史跡や自然、文化遺産の再生、整備を行います。

再生、整備された史跡や自然、文化遺産を活用した景観づくりについて、検討します。

金目地区の豊かな文化性を感じる街づくりの推進を実施します。

基本施策（個別施策）

金目まるごと博物館の中心施設となる調査研究・情報センターの建設

金目地域の豊かな地域資源に関する調査研究活動の拠点となり、また来訪者を現地へと導くための中心施設（コアセンター）を建設します。

地域の自然・歴史・文化等を地域の遺産・資源と位置づけ選定

金目地域の自然・歴史・文化等の貴重な地域遺産について、金目住民の創意に基づいて地域拠点（サテライト）を選定します。

地域を体験し学習して、新たな発見を生み出す道の創設

古代から現代に至るまで、金目の土地に刻まれた人びとの足跡を知るため、サテライト間を結んだ、様々な発見の道（トレイル）を創設します。

その他、金目まるごと博物館に必要と思われる施設の展開

「金目まるごと博物館」の活動が円滑に進められるよう、行政や各種団体等との連携を模索します。また、当博物館に参加する人材を育成するための講座の開講と並行して、PRイベントを実施します。

実施計画事業

コアセンターの建設

設立準備会の立ち上げ

事前調査・資料収集

運営主体の確立
(法人格の取得)

サテライトの整備

サテライトの選定

案内板標識の整備

トレイルの整備

コースの選定

コースの整備・管理

組織体制・PR

ガイドボランティアの会

ガイドマップの作成

会員の増強と充実

会員の研修会

5事業の充実

その他の必要な事業

エコミュージアム金目まるごと博物館は、地域住民による

地域住民のための地域さかし、そして「まちづくり」へ



エコミュージアム事業の中・長期目標

	事業の方向性		事業概要	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～32年度 (中期)	平成33年度～ (長期)
コアセンターの建設	コアセンターは、地域学芸員が調査を行うための機関であり、その活動の一部を紹介するための展示施設となり、地域住民や来訪者のために案内人が道標となる場所です。「金目まるごと博物館」は、屋根がない博物館ですので、この地域の趣にあった小規模な建物（スペース）が望ましいと考えます。	①建設準備会立上げ	コアセンターの建設のため、地元の連合自治会や専門知識をもったエコミュージアム会員等で構成する「コアセンター設立準備会」を発足させます。	→				
		②事前調査資料収集	「エコミュージアム金目まるごと博物館」にコアセンターの建設にあたり、着工時期、建設資金、立地条件などを基本構想としてまとめます。そのため、日本国内の事例を調査し必要な資料等入手し、金目地域にふさわしいコアセンターの概要に活用していきます。	→	→			
		③基本設計等	前記の基本構想に基づき、当施設が有する機能や平面利用を様々な面から検討し、コアセンター基本設計図を作成します。	→	→	→		
		④着工・完成		→	→	→	→	
		⑤その他(NPO)法人化	現在、平塚市と地域市民が協働で進めている「エコミュージアム事業」について、地域住民の主体性を活かした事業展開を可能とするための運営主体の確立を目指します。その一例には非営利法人(NPO)などが挙げられます。	→	→	→	→	

	事業の方向性		事業概要	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～32年度 (中期)	平成33年度～ (長期)
サテライトの整備	金目地域は、その中心を金目川が流れ、金目観音や塚越古墳等の史跡もあります。また、自由民権トリオや金目の鍼医などが活躍し、数々の寺子屋が発達し、各種の学校へと発展した場所です。これらの拠点(サテライト)について、案内板、標識により分かりやすい整備を行います。	①サテライトの選定	資料編：「金目まるごと博物館」サテライト候補地の選定で紹介している代表的な候補地をはじめ、金目地域には歴史・文化、自然・景観、産業に関する地域資源があらわれています。 平成18年度に実施されたワークショップで検討された内容のほか、『かなひ(金目)の歴史ガイドブック』や『金目の自然景観ガイドブック』等の書籍を参考にして、新たに発見された地域資源なども、サテライト候補地を選定します。	→	→			
		②公共サイン計画の決定	金目地域に訪れた人びとが分かりやすい案内版、説明板等を設置するため、そのデザイン(書体・色づかい等)や素材などを統一した規格を決定します。	→	→			
		③案内板の設置候補地の選定		→	→			
		④史跡案内板の設置		→	→	→		
		⑤富士ビュースポットの維持等	現在、金目地域内の8か所に設置されている「富士ビュースポット」標柱の周辺の清掃、手入れをはじめ、土地占用許可の継続申請手続き等を適宜行ってまいります。	→	→	→	→	

	事業の方向性		事業概要	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～32年度 (中期)	平成33年度～ (長期)	
トレイルの整備	前記のサテライトは、そのままでは単に個々の特徴を伝えるばかりですが、実は時間や空間的な特徴で捉えることで、まるで一本の道のようにつながります。これを発見の道（トレイル）と呼び、この道をたどることで、金目地域を様々な角度から学ぶことができます。	①コースの選定	金目の地域住民や来訪者の目的や研究分野のほか、その移動手段や所要時間などを考慮したコースづくり（トレイル＝発見の道）を行っていきます。	→				→	→
		②コースの整備	サテライト周辺の地理的状況、歴史的背景などを踏まえて、本来の姿に近づくことを最優先にして、必要最小限な整備を実施します。	→				→	→

	事業の方向性			平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～32年度 (中期)	平成33年度～ (長期)	
組織体制・PR	「エコミュージアム金目まるごと博物館」活動では、金目地域に暮らす多くの人びとの知識、協力が必要となるため、各種の研修会・講習会などを通じて、正会員、賛助会員など幅広く参画を求めていきます。今後の事業において、専門性をもつプロジェクトチームを立ち上げて取り組みます。 また、「エコミュージアム金目まるごと博物館」の専用ホームページを作成するほか、5大事業等のイベントでもPRします。	①ガイドボランティアの会	「地域住民による地域さがし」の言葉が示すとおり、金目地域に暮らし、熟知する住民自らが案内人となり、来訪者や地域の子どもなどにガイドを行う人材を発掘し、養成を行います。また、案内人で構成される「ガイドボランティアの会（仮）」の体制づくりを進め、学校や他地域からの要請に応じて、金目地域の特徴魅力を伝えます。	→				→	→
		②ガイドマップの作成 (パンフレット)	当博物館の作業部会が調査・研究した成果については、現地で保存・活用しますが、一方で刊行物を発行することで周知を図ります。*1	→				→	→
		③会員の増強と充実	現在、「金目まるごと博物館」の運営を担う人材の募集及びその育成が課題となっています。各種の会員（正会員、賛助会員、ボランティア会員など）を募集したり、子ども、若者、女性の会員を増やし、世代を超えて連携できるように規約改正を検討します。	→				→	→
		④会員の研修会	地域学芸員の経験と知識は、「金目まるごと博物館」の会員相互間の共有財産です。そのため、エコミュージアム全体、各作業部会など、様々な単位の研修会を実施して、地域学芸員のスキルアップを行います。	→				→	→
		⑤5事業の充実	金目の地域性を伝えると同時に、エコミュージアム金目まるごと博物館の活動を知ってもらうため、当博物館は数々のPRイベントを実施しています。今後は、当事業との関連をもったイベント名に変更することを検討し、より参加者の裾野を拡大を図ります。 桜まつり－4月第1日曜日 灯ろう流し－8月中旬 収穫祭－11月第2日曜日 秋山博墓前祭－春分の日 学習発表会－不定期	→				→	→
		⑥他事業	地域学芸員の経験と知識は、「金目まるごと博物館」の会員相互間の共有財産です。そのため、エコミュージアム全体、各作業部会など、様々な単位の研修会を実施して、地域学芸員のスキルアップを行います。	→				→	→

歴史・文化部会

金目地区の歴史・文化に関する調査・研究を行い、その普及・啓発に取り組んでいる。昨年、エコミュージアム金目まるごと博物館の初の出版物となる『かなひ(金目)の歴史ガイドブック』を発行。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～26年度 (中期)	平成27年度～ (長期)
①歴史ガイドブックの普及	→				
②ガイドボランティア協会の設立	→				
③チャレンジ55問の作成・頒布	→				

自然・景観部会

金目川を中心に豊かな自然のいとなみを知ることができる金目地域で花・鳥・魚などの調査を担当。また、富士山や大山などの景勝地、棚田や水田の美しさなどを伝える活動も実施している。今年、『金目の自然・景観ガイドブック』を発行。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～32年度 (中期)	平成33年度～ (長期)
①自然・景観ガイドブックの普及	→				
②金目川への桜の植樹	→			今後、実施の可否を検討	
③富士八景の選定と活用	→				
③五領ヶ台公園内に説明板の設置	→				
④金目観音堂前に人道橋の復元	→			今後、実施の可否を検討	

産業部会

金目の農業の変遷、農法などを研究し、その知識・技術等を後世に守り伝えるための調査・研究活動や、金目の産業面の活性化を検討している。また、竹林再生活動にも従事。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～32年度 (中期)	平成33年度～ (長期)
①産業マップの作成	→				
②竹林再生活動	→				
③金目に適した農産物の資料収集・研究	→				
④家庭菜園塾の開校	→				
⑤「道の駅」の整備	→				
⑥金目駅前商店会(仮)の整備及びPR行事	→				
⑦特産物の開発	→			随時、認定、開発を行う	

情報・イベント部会

エコミュージアム金目まると博物館の広報機関として、各部会から情報集約と発信という重要な役割を担う。また、各種イベントの企画・立案・準備などに携わる。4つの部会の中において、最小人数で構成する。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～32年度 (中期)	平成33年度～ (長期)
①専用ホームページの作成	→				
②各部会共通のリーフレットの作成	→				
③ロゴマーク・キャラクターのPR	→				
④5大事業の実施・充実	→				
⑤出版物の普及・啓発	→				
⑥ガイドボランティアの照会	→				